

小・中学生英語力向上推進事業

青森県版

# 中学校英単語集

## VERSION V

2018年6月

青森県教育委員会



# 目 次

『青森県版中学校英単語集～VERSION V～』の刊行に当たって 青森県教育庁学校教育課長 長内 修吾……………	1
『青森県版中学校英単語集～VERSION V～』について……………	2
具体的な活用例について……………	5
青森県版中学校英単語集 WORD リスト……………	9
青森県版中学校英単語集対話例文……………	103
不規則動詞活用表、数詞・序数一覧表、人称代名詞一覧表……………	119
参考文献……………	123



## 『青森県版中学校英単語集～VERSION V～』の刊行に当たって

県教育委員会では、本県中学生の主体的に英語学習に取り組む態度を養い、英語力の基礎・基本の定着を図ることを目的として、『青森県版中学校英単語集』の作成・編集を以下のとおり行って参りました。

### 1 『青森県版中学校英単語集』平成22年3月

本県の中学生にぜひ身に付けてもらいたい必修英単語700語、言語活動を幅広く充実させるために活用させたい英単語500語の計1,200語を掲載。

### 2 『青森県版中学校英単語集～VERSION II～』平成23年3月

授業や生徒の自学自習で活用できるよう、全ての英単語に例文を付けるなど再編集。

### 3 『青森県版中学校英単語集～VERSION III～』平成24年3月

例文について修正を加えるとともに、1,782の例文や対話文の音声データを収録。

### 4 『青森県版中学校英単語集～VERSION IV～』平成26年6月

教科書に対応するよう、掲載する英単語と例文の見直しを実施。

そして、この度、平成29・30年度の重点事業「小・中学生英語力向上推進事業」の一環として『青森県版中学校英単語集～VERSION V～』を刊行いたしました。

この単語集は平成29年3月に告示された新学習指導要領を踏まえ、小学校及び高等学校における学習内容との接続の観点から「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の五つの領域別の目標を達成するために、小学校で学習した単語に新しい単語を加え、2000語を超える英単語を掲載しました。

各中学校におかれましては、この単語集を通じて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図り、生徒の主体的な英語学習への取組及び英語力の基礎・基本となる語彙力の更なる定着のため、大いに御活用いただきますようお願いいたします。

平成30年6月

青森県教育庁

学校教育課長 長内 修吾

# 『青森県版中学校英単語集～VERSION V～』について

青森県教育委員会

## 1 作成のねらい

本県公立中学校の生徒の英語の語彙力を高めるとともに、生徒が主体的に英語学習に取り組む態度を養い、英語力の基礎・基本の定着を図る。

## 2 作成の経緯

文部科学省では、現行の中学校学習指導要領において、3年間で指導する英単語を、「900語程度までの語」から「1200語程度の語」としたが、具体的な語は示されていない。

そこで、県教育委員会では、平成20年度に全国で使用されている全6社の英語の教科書を分析し、青森県の中学生に身に付けさせたい英単語1200語を選定し、『青森県版中学校英単語集』を作成した。

また、平成21年度には、平成20年度に作成したものに検討を加え、それぞれの英単語に実際の使用例文（単文及び対話文）を付け加え、授業や生徒の自学自習に活用できるように再編集し、『青森県版中学校英単語集～VERSION II～』を作成した。

また、平成23年度には、使用例文（単文及び対話文）をより自然な英文になるよう改善を図るとともに外国語指導助手の協力を得て、1782の例文や対話文の音声データを収録し、『青森県版中学校英単語集～VERSION III～』を作成した。

さらに、平成25年度には、新教科書に合わせ、英単語集に収録すべき英単語の見直しと例文の改善を行い、平成26年度『青森県版中学校英単語集～VERSION IV～』を作成した。

そして、平成29年度には、新学習指導要領で指導することとされている1600語～1800語に対応できるよう、青森県で使用されている現行の教科書に掲載されている英単語、そして小学校外国語教材『Hi, friends! 1、2』に使用されている英単語からおおよそ2000語を選定し、さらに例文等の再編集を行い、平成30年度版『青森県版中学校英単語集～VERSION V～』を作成した。

## 3 『青森県版中学校英単語集～VERSION V～』の内容

### (1) 英単語のカウント基準

- ① 品詞が異なってもつづりが同じ英単語は1語とカウントした。よって、英単語リストの表記上、英単語のつづりが同じでも意味や品詞が異なっているものは行をかえている。
- ② 動詞の変化において、規則的に変化するものは1語とカウントした。また、不規則に変化するものは、原形、過去形、過去分詞（形）をそれぞれ1語とカウントした。
- ③ 形容詞や副詞の比較変化などのうち、規則的に変化するものは1語としてカウントした。不規則なものについては、原級、比較級、最上級をそれぞれ1語とカウントした。
- ④ 連語及び慣用表現については、カウントしないこととした。
- ⑤ 数詞や序数、曜日や月の名前及び国名等の固有名詞については、それぞれ1語とカウントした。
- ⑥ 人称代名詞については、それぞれ1語とカウントした。

### (2) 掲載内容

- ① 『青森県版中学校英単語集～VERSION V～』には、おおよそ2000語の英単語を掲載した。
- ② 冊子に掲載した英単語は、アルファベット順に掲載し、つづりの同じ英単語でも意味や品詞が異なる場合は行をかえた。
- ③ 1つの行には、「単語」「品詞」「意味」「例文」「例文の意味」「掲載教科書[教材]名（学年とページ）」を掲載した。

- ア 「単語」 : 選定した英単語を掲載した。
- イ 「品詞」 : 次のような略語で示した。  
「冠」→冠詞、「名」→名詞、「代」→代名詞、「動」→動詞、「助」→助動詞、「形」→形容詞、「副」→副詞、「前」→前置詞、「接」→接続詞、「間」→間投詞
- ウ 「意味」 : 当該英単語に対応する日本語の意味を記載しているが、英単語によっては、日本語の意味だけでは理解しにくいものがあるため、必要に応じて簡単な説明を付した。
- エ 「例文」 : 当該英単語の用例（掲載されている教科書からの引用等）を示しており、単語及びそれを用いた慣用句をゴシック体とした。
- オ 「例文の意味」 : 例文に対応する日本語の意味を記載しており、単語及びそれを用いた慣用句の意味に相当する部分をゴシック体とした。
- カ 「掲載教科書[教材]名」: 単語が、どの教科書の何学年の何ページに初出で掲載されているかを数字で示した。ただし、Hi, friends! 1、2（文部科学省）に関しては、1または2の、どのレッスンに掲載されているのかを数字で示した。

例) H 2 0 1 1 : NEW HORIZON 2 学年の 1 1 ページ  
HF 2 8 : Hi, friends! 2 のレッスン 8

- ④ 連語及び慣用表現については英単語数にカウントしないが、運用度が高い、あるいは用例が必要であると判断されるものについては、その連語や慣用表現を構成する上で、基となる英単語の行の中の「意味」の欄に付記した。
- ⑤ 冊子に使用している括弧の使い分けは、意味的な説明には《 》、文法的な説明や例となる表現には〔 〕、省略可能な部分には（ ）、前の表現と交換可能な部分には[ ]としている。

### (3) 英単語・連語・慣用表現の選定基準

新学習指導要領には、「実際の教科書や教材に掲載する語彙の選定に当たっては、受容語彙・発信語彙の区別をより明確にして、受容語彙は日常的・社会的な話題を考慮した選定を行い、発信語彙は単元・学年などを超えて繰り返し提示・練習するなどの工夫を行うことが望ましい。」と示されていることもあり、県内で使用されている英語の教科書に掲載されているほぼ全ての英単語をリストに載せた。

## 4 活用について（より具体的な活用方法については、「具体的な活用例（p 5～7）」を参照のこと）

### (1) 英単語の選定について

語彙指導においては、教師がどのような語をどの場面で何語教えるのかという目標を明確にもつことが大切である。

そこで本単語集VERSION Vでは、県内で使用されている3社の教科書に掲載されている英単語を選出し、3社全てに掲載されている英単語と、1～2社に掲載されている英単語に選別したものである。

### (2) 授業等における活用について

#### ① 3社全ての教科書に掲載されている英単語（黄色で表示）について

県内公立中学校では、現在3社の教科書が使用されている。選出された全英単語のうち、黄色で塗られている単語は3社全てに掲載されており、極めて運用度の高い英単語と判断されることから、確実に定着させるよう計画的に指導していくことが必要である。



- ② 1～2社の教科書に掲載されている英単語（無色で表示）について  
①以外の英単語の指導についても、様々な言語活動を通じて、まずは聞いたり読んだりして理解できる語彙として定着させ、徐々に自己表現のための語彙として定着させる必要がある。
- ③ 英単語の並べ替えについて  
単語リストには、英単語の初出の学年・ページ数が表記されているため、エクセルのソート機能を使って、自由に並べ替えることができる。  
従って、単元やレッスンごとに、出てくる単語をまとめて提示し、語彙指導に活用することができる。
- ④ 対話文とワークシートについて  
授業において、コミュニケーション活動を行う際に、よく取り上げられる場面を意識した対話文を掲載した。そして、どの対話文を用いても、下記のア～エのように活用できるワークシートを掲載した。  
ア Useful Words & Expressions の意味を確認する。  
イ Useful Words & Expressions を用いて、自分で英文を書く。  
ウ イで自分が書いた英文が、どのような場面で使われるか説明する。  
エ 数人での会話になるようにダイアログを書く。

対話文は、様々な工夫して活用できるので、英語担当教員が自ら工夫してワークシートを作成することで、活用の幅が広がる。

### (3) 生徒の実態に合わせた活用について

本英単語集に収録されたおよそ2000語のうち県内で使用されている3社の教科書に掲載されている英単語について、「英単語リスト」シートには黄色で表示されている。個々の生徒に過度な負担とならないよう、生徒の発達段階や実態に合わせて、これら単語を学習の目標として与えたり、品詞や初出の学年で区別して覚えさせていくことなどが考えられる。

### (4) 県教育委員会のホームページの活用について

本英単語集のデータは、全て県教育委員会のホームページからダウンロードできるので、積極的に活用してほしい。

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/sassi.html>



# 具体的な活用例について

## I 語彙学習の一助として

語彙学習のポイントとして、以下のことを意識することが大切です。

- ・ 教師は、生徒に対して明確な目標を与え、意図的に学習させる。
- ・ 教師側が、生徒に対して、どのようなことを、どの程度まで求めるかを提示する。
- ・ 生徒の達成度を、定期的に個々の生徒に知らせる。
- ・ 生徒に語彙の学習の仕方(語の形成や未知語の推測の仕方、辞書の使い方など)を具体例と共に提示する。

### 1 辞書として授業等において活用する

青森県版中学校英単語集VERSION Vを学級の人数分印刷・製本し、教室に据え置きにし、授業や放課後等において、必要に応じて使用することが考えられます。

### 2 自主学習課題として活用する

データを修正・加工しながら単語練習プリントを作成するなど、日常や週末、長期休業中、外部検定等対策の自主学習課題として活用することが考えられます。

例えば、1つの英単語につき、何回か書く練習をした後に、定着したか確認できるような工夫をしたり、日本語を書かせるワークシート、英語を書かせるワークシート、対話文を書かせるワークシート等に分けたりするなどの工夫も可能です。

### 3 英単語の復習として活用する

中学校に入学した段階で、小学校で慣れ親しんだ英単語を、第2・3学年に進級した段階で、第1・2学年で学んだ英単語を青森県版中学校英単語集から選出し、授業で毎時間10分程度活用し、10語程度を取り上げて復習していくことができます。その際、いろいろな復習の仕方が考えられます。

(例)・授業の導入部分で、Small Talkやインタラクションの言語材料とする。

- ・ 英単語集の例文は対話形式になっているので、ペアで会話する活動を練習として位置付ける。
- ・ 前日に口頭練習等をさせ、次の日に小テストの形式で書かせる。
- ・ ディクテーションの形で書かせる。
- ・ 英単語としてではなく、文章として書かせる。
- ・ 対話形式の例文の一部を空欄にしておき、適語補充形式で単語を書かせる。

### 4 スペリング・コンテスト等に活用する

教科、学年あるいは学校全体の取組として、漢字コンテスト、計算コンテスト及びスペリング・コンテスト等を実施する場合がありますが、その際、スペリング・コンテストのねらいや生徒の実態に応じて、出題する英単語を青森県版中学校英単語集から選択することが考えられます。

### 5 年度初めの導入として活用する

多くの書き取りや例文を活用した英作文等は、第1学年にとっては難しいため、第2学年からの活用を想定しています。

2学年の最初に、青森県版中学校英単語集から300程度の英単語を訳語とともにリストで提示し、それらを6時間程度かけて練習させます。

その後、教科書に入りますが、既にリストで練習していることから、復習として英単語を扱うことになり、記憶が強化されるだけでなく、文脈から推測させたり、派生語を考えさせることなども可能となります。

#### ◇手順（1～6時間）

- ① 2学年で学習する英単語の全てに訳語をつけたものをリストにして生徒に配付する。
- ② 1学期始めの6時間程度をかけて、1時間で50問ずつ、発音練習、書く練習、覚える練習、英語を日本語に直す練習、日本語を英語に直す練習などを行う。（7時間目以降）
- ③ 10～20問程度の英単語テストを継続したり、覚えた単語を授業の中でできるだけ使用したり、リスニングや読み書きの活動で取り入れるようにしたりする。
- ④ 1学期に1度、100問程度のテストを行い、記憶の強化を行う。  
※テストは、英単語を聞いて綴りを書く問題、綴りを見て意味を書く問題、綴りを見て連想語を書く問題、綴りを見てコロケーションを問う問題など、5種類に分け作成し、適宜、選択して使用する。

### 6 1つのキーワードに焦点をあてた語彙学習として活用する

中学校第1学年の段階から、辞書指導も兼ねて、教科書の各ページで扱われている語彙の中の一語（名詞、形容詞、動詞、副詞、前置詞）に焦点を当てた指導も効果的です。

- (例)・haveにはさまざまな意味があるが、haveという1語に焦点を当て、ワークシートに青森県版中学校英単語集からhaveの意味と例文をすべて取り込み、まとめて学習する。
- ・青森県版中学校英単語集では、例文はすべて対話形式となっているので、言語活動をさせながら、場面や意味を確認していく。

### 7 受検対策学習に活用する

第3学年の2学期及び3学期において、毎時間の授業の一部を使って、小テスト形式で復習させたり、様々な時間や場面において、受検に向けた個別指導等において活用したりすることが考えられます。

その際、青森県版中学校英単語集から、必要な英単語を編集し直したり、生徒の実態や目的に合わせたワークシートを作成したりするなどの工夫も可能です。

## II 言語活動等の一助として

新しい単元（レッスン等）に入る前に、CAN-DOリストを活用し、目標を明確にした単元全体の指導計画を立てますが、「題材」「新出文型」「新出英単語」を分析し、どのようにして単語や表現を提示するのかを考えることが必要です。

その際、青森県版中学校英単語集を活用し、使用頻度の高いと思われる語彙や学校生活及び日常生活で生徒が本当に使用したいと考えるであろう語彙を、他の教科書で扱われているものも含めて吟味し、それを、授業のどのような場面で、どの英単語や表現を取り入れ、言語活動に取り組みせていくのかを考えることが大切です。

### 1 導入や復習として活用する

英単語集に掲載されている単語を使ったリスニング教材や読み物資料をALT等にも協力してもらいながら作成し、導入や復習として、授業等で活用することが考えられます。

### 2 オーラルインタラクションにおける新しい語彙の導入として活用する

本文の内容理解等に係るオーラルインタラクションにおいて、教科書では掲載されていない語彙を意図的に取り入れていきます。

- (例)・教科書本文の行間を埋めるような情報、生徒の理解を助けるような情報を、教科書には掲載されていない語彙や既習語彙等を使いながら話す。
- ・教科書の内容理解と関連のある英単語は、生徒にとって覚えやすいものとなるので、教科書との関連性をよく考えて、導入する単語を決定したり、導入する場面を決定したりする。

### 3 書く活動において活用する

授業等のまとまった英文を書く活動場面で、テーマに応じて、使用可能な単語のデータベースとして活用することが考えられます。

(例)・「自己紹介しよう」というテーマで、まとまった英文を書かせる場合、事前に birthday、hobby、favoriteなどの生徒が使用したいと考えるであろう英単語を表計算ソフトのファイル上で編集し直し、ワードバンクのような形で一覧表にして生徒に配付する。

・英作文のねらいや生徒の実態に応じて、編集内容を変える。

### 4 ウォームアップ等に活用する

授業のウォームアップ等において、ビンゴゲーム等が用いられますが、取り上げる英単語や文章を、青森県版中学校英単語集から選択して加え、語彙の拡充を図ることが考えられます。

